



受験生のいる家庭

社会教育指導員・宇野克彰

子供たちは親から期待されていると思いい、そして自分も合格したいので頑張つて勉強しようと思います。しかし、いろいろと思いい悩むのが受験生の心理なのです。受験生のいる家庭では子供たちがそういう気持ちになりがちなのを理解して子供を追いつめないような配慮が必要です。

受験生たちは受験を大事に考え、失敗してしまつて一生が駄目になるように思いいがちです。高校受験がすべてでないの言うまでもありません。いづれ高校卒業後は自分なりに進路を選択することになりますし、大学へ進む場合でもその後就職や転職など、それぞれの時期に自分の人生を選択することになります。

現在は「一流大学」卒業と言ふ肩書きがあれば一生保証されると言ふような甘い時代ではありません。生涯学習の時代と言われるように、どの人もその人なりの学習努力を重ねないと社会から取り残されてしまいます。しかしその反面生涯学習の時代はどの人も、やる気さえだせば自分なりの人生を送れることを意味していると思いいます。少なくとも学習の効用は、これから先、ますます減少していくはずはです。そうだとし

たら受験生は今度の受験に人生のすべてがかかっていると思わずに、これから先、何回かチャレンジをする開門の一つを目指すのだと思いい、気楽に受験を考えたらよと思いいます。つまり、「入る・入らない」は結果であつて、それに運、不運も伴います。しかし目標へ向けて努力する態度は今回の受験だけでなく、これから先、ずっと求められるものです。中学三年生の家庭学習を見ていると、大半の生徒は予定表を作つていません。

その時の気分で数学をやつたり英語のリーダーを開いたりしています。これでは、きちんとした力はつきにくいと思いいます。二週間あるいは一か月単位の予定表を作り主体的に勉強のペースを作つていくことが大切です。それと同時に自分の間、テレビは一時間半以内、あるいはラジオを聞く、音楽はその日の予定が終わつてから聞くというふうなルールを作り、そして守つていくことも大事です。小中学校が受験を意識しないで済む社会が理想的なのかもしれませんが、しかし、どのような社会になつても目標へ向けて努力して行く態度は必要はです。

したがつて、家庭では受験した結果にはとらわれずに、学習努力そのものを認め励まして欲しいと思いいます。そうすれば子供も先のことを悩まずに勉強して行くことでしょう。受験するのは子供本人です、親の見栄や、あせりから高望みをするのは避けなければなりません。また過

度の受験勉強はその時は良いように思えても子供の将来に必ずしも良いとは言えない影響を及ぼすことが多いようです。長い生涯という道程で

子供の将来を考え、その子なりの個性を伸ばす、そうした長期的な見通しを踏まえておけば、もう少し明るく受験勉強に取り組めると思いいます。

国内体験航海

「少年の船」参加者募集

主催 B & G財団
日程 平成6年3月26日から4月1日

行先 沖繩県

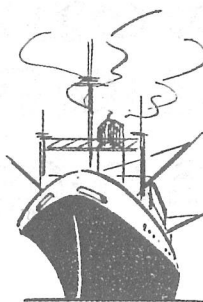
参加費 65000円(うち、半額は町が補助します)

定員 2名

対象 小学校5・6年生、中学生

申し込み 11月25日までに海洋センター(☎5700)へ申し込んで

ください。申し込み者多数の場合は11月25日(木)に抽選会を行います。



新刊紹介

公民館図書



駆け込み団地の黄昏(赤川次郎)
危険な協奏曲(阿部牧郎)

潮流(伊集院 静)

ファザーファッカー(内田春菊)

蝶と海(清岡卓行)

顔に降りかかる雨(桐野夏生)

アルファベットの傷口(多和田葉子)

死者たちのサツカー(中村真一郎)

テーブルの雲(林聖)

石と笛3下(ハンス・ベンマン)

このほか、いま話題のものなど、月30冊の新刊が、みなさんのお越しをお待ちしています。